

## どんな職業か

カラー印刷物の制作において、グラフィックデザイナーが作成したデザイン原稿に基づいて印刷用の版を作る仕事である。

印刷の版には凸版・オフセット（平版）・凹版があるが、現在はオフセット印刷のプロセス製版（写真製版）が主流になっている。

作業は、分解、集版、校正の3工程に分かれる。まず、指定された色調や濃度の調整、デザイン原稿と出来上がり寸法の倍率調整を行った上で、カラスキャナーを使って原稿を黄・赤・青・黒の4原色に色分解し、4色データを作成する（分解）。

次に、デジタル化された写真の情報を、コンピュータのディスプレイ上で確認や修整を行う。原稿のレイアウトに従って写真と文字を組み合わせ、印刷原版的なデータを作り上げる（集版）。データを原色4枚のフィルムに出力して、印刷原版を作成するか、直接データをDDCP（Direct Digital Color Proofing：デジタルデータを直接紙に出力し色校正に利用する装置）で出力する。

印刷原版を元に試験刷りまたはDDCPで、誤植やレイアウトの誤り、4枚の版のずれ、色調などを念入りにチェックして修整する（校正）。さらに、注文主のチェックを受けて修整し、次の印刷工程に送る。

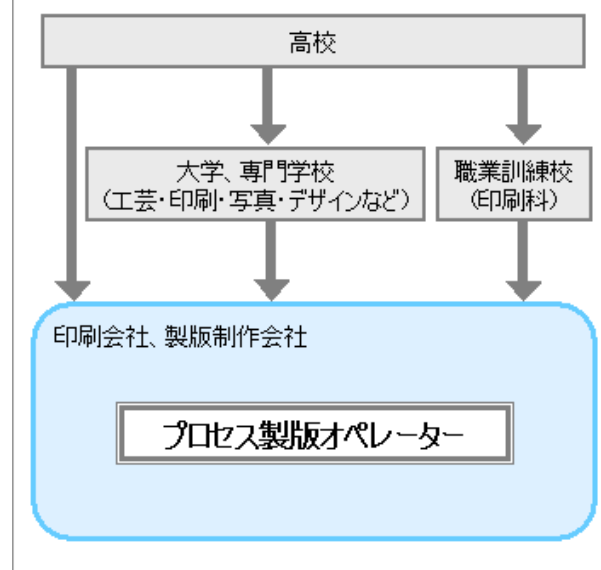
## 就くには

入職にあたって、特に免許や資格は必要とされない。高校、専門学校、大学や職業訓練校で印刷・デザイン・写真関係の学科を学んでいると有利である。

採用後は、印刷全般に関する研修を受けてから配属され、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）によって仕事を覚えていくのが一般的である。複雑な集版の仕事をこなせるようになるには5年程度の経験が必要である。

厚生労働省が実施している技能検定に「製版」があり、「製版技能士」の資格を取得すると技術が評価され、昇進や給与の面で優遇されることが多い。

色彩感覚が鋭い人、コンピュータに対する興味がある人が向いている。



## 労働条件の特徴

大手印刷会社の製版部や、製版を専門に行う会社で働いている。

就業者は男性が多いが、最近では女性の進出も増えている。

納期が決められているため、残業が必要になることも多く、繁忙期には昼夜の二交替制を採ることもある。

職場の環境は、工場労働というよりはオフィス労働に近く、分解・集版の工程では、コンピュータ（マッキントッシュが主流）やカラスキャナーなどの操作、校正の工程では、ライトテーブル上で製版フィルムを透視し、チェックする作業が中心となる。

## 参考情報

**関連団体** 社団法人 日本印刷産業連合会  
<http://www.jfpi.or.jp>

**関連資格** 製版技能士